



主×燭

主×鶴

俺の彼女と狭い四畳半

成人向

おう
ご苦労さん

ああ…いや
おかえり、だな

なあ君、
そろそろ新しい
ソフト？の
買い時じゃないか

んっ
次の面か

ほい

ほい

もう君の
セーブデータを
追い越して
しまったぞ

ワ
ッ
ッ

おっ？
なんだなんだ
奇襲のつもりか？

まあ待って待て

この面が
終わったら…



ふっ…

んく…



全く君って
やつは…
堪え性が
無いな

ああ
その茶
取ってくれ



は、ははっ
いきなり
本陣狙いとは
驚いたな

君となら
この退屈な
ゲームとやらも
楽しめそうだ



くっ…お…ッ

お茶



あれ

おかえり
なさい
主くん

うん、
流石に体が
なまると
いけないから
ね

…え？
一緒に
したいって？



…大丈夫
かな

主くんは
ちやんと
おさえてて
ね

それじゃあ
いくよ…



僕は回数を
数えてるから

よいしょつ…と



僕の胸…
絶対大きく
なってるよ
誰かのせいだ…

はっ

はっ…



…あれじゃ
ないと
だめかな…



ええっ…と
するのは
かまわない
けど…



だからもう…
これつきりに
して欲しい
…っな…っ

すっごく
恥ずかしい
んだからね！
知らないと思
うけど…っ

んっ…っ…っ

